

メビウスのレポート

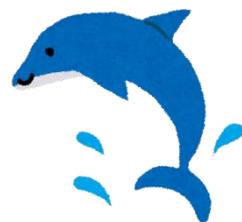


特定非営利活動法人メビウス千葉 活動報告 令和4年4～6月号（7月10日発行）

日を追うごとに夏らしくなるこの頃、皆様いかにお過ごしでしょうか。
常日頃からメビウス千葉の諸活動に多大なるご支援・ご理解を賜り誠にありがとうございます。
今後も引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

条件反射制御法研究会に参加しています。

2022年より、オンラインによる条件反射制御法研究会が開催されています。2月28日に開催された第1回のテーマは、NPOアパリ事務局長の尾田真言氏による「刑事司法体系による治療の強制に関する実際と法」、5月16日の第2回は、NPOヒューマニティ理事長の小早川明子氏による「ストーカー行為のメカニズムと治療」、6月13日の第3回は、弁護士法人鳳法律事務所弁護士の林大悟氏による「万引き事件に対する刑事弁護」、7月11日の第4回は、鴨川シーワールド館長の勝俣浩氏による「海獣類における問題行動への対応」、8月19日の第5回は、独立行政法人下総精神医療センター依存症治療部長の平井慎二氏による「刑罰と援助が補い合う∞連携の構想と展開」です。この研究会は、様々な立場で条件反射制御法を実践・研究している関係者が意見交換を行い、知識を深め、より効果的な治療の実践や社会制度のあり方、関係機関の役割分担や連携のあり方について検討を重ねるものです。



条件反射制御法を実践する施設は年々増加していますが、社会全体を見ればまだ正しい知識が普及しているとは言い難く、条件反射制御法の理論をもとにした刑事司法体系の確立が望まれています。メビウス千葉は条件反射制御法の維持作業を柱として、様々な事情を抱えた寮生の支援を2013年から行っています。実践により回復し、社会復帰する人々が増えれば、条件反射制御法に対する関心が高まり、司法や制度に対する働きかけも強めることができます。

第4回の「海獣類における問題行動への対応」では、イルカショーにおけるトレーナーとイルカの関係について講演が行われます。メビウス千葉では、条件反射制御法が第一信号系に働きかけ、職員の関わりが第二信号系を教育すると考えていますが、この第二信号系の理解力に困難がある（問題行動をなぜやってはいけないかわからない）寮生が一定数存在します。イルカは第二信号系を持たず、第一信号系のみで行動しています。第一信号系に効果的に働きかけるトレーナーの関わりが、知的障害や発達障害を持つ寮生への働きかけのヒントになるのではないかと期待しています。

2名の寮生が、相談援助実習を行いました。

社会福祉士・精神保健福祉士の資格取得のため、2名の寮生が通信制の大学で学んでいます。6月から一人は精神科クリニックで、もう一人は社会福祉法人で実習を行っています。

今回実習を受け入れてくださった機関の役割や、多機関・多職種の連携について知ることは、他の福祉事業所とメビウス千葉の役割の違いを知ることであります。メビウス千葉は、他の一般の福祉事業所と異なり、治療が優先される医療的な側面も持っています。入院生活と違い、地域での生活は自己決定の連

続です。自己決定には自己責任が伴いますが、責任能力が不十分な状態で社会生活を送っていくことは、受け入れる施設職員の判断がその責任の一部を補うことになります。

2名とも現在は寮生であり、職員ではありませんが、施設種としては法的な根拠を持たないメビウス千葉で、福祉士という法的な根拠を持って活動することは、現在の福祉制度に一石を投じる挑戦となります。

メビウス千葉 動静報告。(令和4年4月～6月)

※特に記載がない場合、入退院は下総精神医療センターです。



4 月

- 女性1名（覚せい剤）、アパートの階段を踏み外し足首にヒビが入る怪我。
- 女性1名（PTSD）、発熱、新型コロナウイルス陰性。
- 女性1名（覚せい剤）、体験利用。
- セレナの鍵が不明、合鍵を作って対応。
- 男性1名（窃盗症）、入寮。
- 男性1名（その他薬物）、退院。
- 女性1名（窃盗症）、不満がありメビウスの車両を蹴るなど暴れる。
- 男性1名（アルコール）、救急搬送。
- 男性1名（覚せい剤）、木村病院を退院、再入寮。

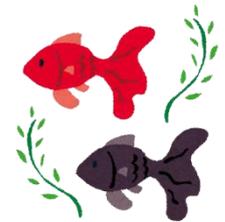
5 月

- 女性1名（処方薬）、退院。
- 男性1名（その他薬物）尿検査陽性、再入院。
- 男性1名（処方薬）、救急車を2度要請、入院希望、施設長が説得し落ち着く。
- 男性1名（処方薬）、職員と他の寮生でルールの話し合い中暴力、翌日再入院。
- 女性1名（窃盗症）、置手紙をし無断退寮。
- 男性1名（アルコール）、亀田病院から下総精神医療センターに転院。
- 男性1名（アルコール）、飲酒の欲求が高まり再入院。
- 女性1名（PTSD・放火）、入寮。
- 女性1名（アルコール）、精神的に不安定になり再入院。
- 男性1名（アルコール）、めまいや健忘が悪化し再入院。
- 男性1名（覚せい剤）、退院。
- 女性1名（覚せい剤）退院。
- 女性1名（覚せい剤）、不安定になり入院を希望するが、病室の空きがなく様子見。
- 男性1名（覚せい剤）、職員に暴力を振るい再入院。
- 男性1名（覚せい剤）、夜間救急車を自ら要請し再入院。
- サテライトの隣の家から苦情、ゴミが飛んでくるとのこと。職員と本人で謝罪。
- 女性1名（アルコール）、退院。

6 月

- 女性1名（PTSD）、喘息発作のため救急搬送。

- 男性1名（ギャンブル）、秋本病院退院、入寮。
- 女性1名（覚せい剤）、コンビニ強盗をし逮捕、その後処分保留で保釈。
- 男性1名（アルコール）、女性1名（窃盗症）、退院。
- 女性1名（覚せい剤）、退寮。
- 男性1名（窃盗症）、入寮。
- 男性1名（性犯罪）、退院。幻覚・妄想による異様な言動のため4日後に再入院。
- 女性1名（アルコール）、再入院。
- 男性1名（性犯罪）、23時30分ごろ帰宅し、ANNE Xが施錠されていて入れず大声を出し、近隣住民に通報される。門限20時を守れていなかったとみられる。
- 男性1名（覚せい剤）、退院。
- 男性1名（処方薬）、再入院。
- 1名、女性1名発熱、新型コロナウイルス陰性。
- 男性1名（窃盗症）、入院。男性1名（性犯罪）再入院。
- サテライトで夜間、屋外の段ボールに放火。昨年自主退寮した男性によるものとみられる。
- 男性1名（覚せい剤）、退寮。
- 男性1名（覚せい剤）、入寮。



窃盗	窃盗 摂食障害+	覚せい剤	アルコール	その他薬物 (処方薬含む)	性犯罪	PTSD 放火+	PTSD	ギャンブル	ストーカー
10	3	9	7	5	4	2	1	3	2

総在籍者 男性26名、女性19名、合計45名（令和4年6月30日時点）

相談支援事業所メビウス 動静報告。(令和4年4月～6月)

6月30日現在、居宅介護利用希望者3名、就労移行支援利用希望者2名の事業所を検討中です。障害福祉サービス事業所からの訪問や電話も増え、紹介できる事業所も増えてきましたので、できるだけ利用者のニーズに合致した事業所を紹介できるよう努力します。

4月

- メビウス千葉入寮者3名、外部からの利用者1名、契約。
- 1名、就労継続支援B型に見学同行、計画書作成、利用開始。
- 1名、モニタリング。

5月

- 4名、モニタリング。

6月

- 3名、モニタリング。

※6月30日現在、総登録者14名、うちメビウス外部3名、サービス等利用計画書作成済み8名。





田植えを行いました。

3月から大網白里市で開始した『メビウスファーム』では、5月上旬に田植えを行いました。全員参加のイベントにすることは叶いませんでしたが、週2回を目安に草取りや畦の修繕などの環境整備を行っています。ファームまでの往復は、免許を取得した寮生の運転練習の機会となっています。一度に大勢が参加できないのが現状ですが、今後の収穫を楽しみに作業を行っています。



寄付金のご協力をお願いします。

メビウス千葉は、『千葉まちづくり応援寄附金』の対象団体となっております。

千葉市まちづくり応援寄附金制度とは、一定の要件を満たした対象団体の中から、応援したい団体を指定して寄附ができる千葉市の新しい制度です。「まち寄附」は、ふるさと納税制度による税控除を受けることができるので、まちづくり団体へ気軽に寄附をすることができます。

昨年度の寄附総額は1,200,000円でした。厚く御礼申し上げます。

詳しくは千葉まちづくり応援寄附金ホームページをご覧ください。

<https://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/jichi/machikifu-top.html>



この3カ月を振り返って。

4月から6月は、大きな動きはなかったものの、入退院、入退寮が多くありました。それだけ手続きなどの職員の負担も大きくなります。在籍者のうち常に10名ほどが入れ替わり入院している状態です。

条件反射制御法は第一信号系に働きかけますが、第二信号系の働きが弱いか不十分である人が何度も調子を崩している現状があります。第二信号系の思考の働きを強化することと、第一信号系の望ましくない行動の働きを弱めることを両方行わなければなりません。また、第一信号系の望ましい行動の強化として、望ましい行動に生理的報酬を発生させるという方法も効果的です。

知的障害や発達障害の対応として、「なぜわからないんだ?」と書いていろいろな言い方をすると本人が混乱してしまうため、なるべく「シンプルな言葉で」「同じことを何度も」言い聞かせることが効果的だと実習指導者から教わりました。そして「機が熟すのを待つ」ということでした。その人の中で「腑に落ちる」瞬間がいつ訪れるかはわからない、というのです。支援者のペースではなく、あくまで本人のペースに合わせて支援を行うことと、諦めず続けることが大切ということです。

日中活動の内容は、メビウスファームとマスク・ストラップ制作を引き続き行っています。新型コロナウイルス感染対策も引き続き気を付けながら、活動を行ってまいります。